

# 磨きのプロが認めた「BRSE-1800L1」のスゴイところ



**握りやすいハンドル&ソフトグリップ**  
「滑りづらくて握りやすい。ヘッドが手にすっぽりと納まって、片手でも操作ができます」

**高い研磨力**  
「同クラスの他社製品に比べてオービット径が5mmと大きいので、研磨力は抜群にイイですね」

**コードレス**  
「これが大きなメリット。ルーフ磨きはコードが邪魔にならないから作業がすごくはかどります」

**ダイヤル式の速度調節**  
「作業中でも操作がラク。5〜6でキズを抜き、1〜2で仕上げる……。一台で幅広く使えます」



「まなっちガレージ」の代表として達人ディテラー。Youtubeチャンネル「まなっちガレージ」では、ポリッシャーやコーティングなどの商品レビューをプロ目線で発信中

高松祐一さん  
まなっちガレージ代表



**スポンジを付けたまま自立可能**  
「無造作に置くくとパッドを傷めてしましますが、これなら心配ありません」



**バッテリーがコンパクト**  
「取り付けてもバランスを損ないません。ほかの充電工具と共用できるのも便利です」



**18V充電式サンダポリッシャー  
BRSE-1800L1**  
価格3万1130円  
業務用モデルで培われた研磨力や操作性を家庭向けにフィードバックさせたクルマ磨き用コードレスポリッシャー。オービット径5mmの高出力研磨力に加え、スピード調節が容易なダイヤル式のツマミや数々の安全機構を採用した。1バッテリーあたりの連続使用時間はダイヤル4で約14分。収納バッグ付き。



**収納バッグ付き**  
「自分の使いたいモノだけを収納して、洗車場に行くときはこれとバケツだけ持っていけばいい。ブランドのロゴも自慢になります(笑)」

納品ももちろん大きいサイズです。肝心のパワーについてはどう感じましたか？

「まず、先ほど言ったようにコードレスにするけどパワーが弱くなりませんか？と、それは感じません。あと、これはそれくらい使えるんですかね……。(ダイヤル3)4で10分、15分の連続使用が可能と聞いて、仕上だけなら、さらさらっと流すだけでも仕上がりがいいので、短時間で充分。一般の方の場合、一日でホテイスべてを磨く方って少ないんじゃないかな。」

それともうひとつは「コードがない分、操作性と効率が格段に上がります。たとえばルーフやボンネットを磨くときは、(RSEは)コードを肩にかけるんですが、万が一ズレ落ちたりしたらボディにキズが付く恐れがあります。それと、いちいちコードを肩にかけるのも面倒じゃないですか。」

真中祐一さん「RSE」の最大のメリットは「RSE」のスパイクやデザインをそのまま引き継ぎ、コードレスにより作業効率が上がったことにある。

「僕らのようにRSEを使い慣れていれば、そのまま違和感なくRSEを使いこなすことができます。そのうちコードレス。初心者の方でも、まずは低速から始めれば、慣れるのにさほど時間は要さないと思います。」

「愛車だからこそ、たまには自分で磨いてみたいもの。きつハマってしまつかも……。」



## 磨きのプロが京セラの 新型コードレスサンダポリッシャーを試してみた! 一番のメリットは作業効率が 格段に向上することです。

大きなキズや汚れならざ知らず、自然についてしまう細かいキズや水垢くらいなら自分で何とかしたいもの。そこで紹介するのが京セラの新しい18Vの充電式サンダポリッシャー「BRSE-1800L1」だ。その実力はどれほどなのか？ カーディテリングのプロフェッショナルが検証する。

写真/数崎大(WPP) 文/モノマガジン編集部

「コードレスなのにトルクが下がらない、それがすごいですよね」開口一番、そう語ってくれたのはカーディテリングの専門会社「まなっちガレージ」代表の真中祐一さん。今回、京セラの新しいサンダポリッシャー「BRSE-1800L1」(以下RSE)の仕上げ磨きの実力を検証してくれるプロディテラーだ。ちなみにディテラーとは、クルマ磨きのスペシャリストのこと。その美しさを最大限引き出してくれる人だから、新製品を試してもらうには打ってつけなのだ。加えて、今回はDIYユーザーのみならず、プロたちからも高い評価を得ているロングセラモデル「RSE-1250L」(以下RSE)のデザインと性能を受け継いだ製品だ。「RSE」のことを熟知する真中さんが適任なのだ。

では「RSE」と比較しながら、「BRSE」について、真中さんに語っていただいたよ。

「最初はもっとバッテリーが大きいかと思ってたんですが、意外とスリムで驚かされました。片手でもバランスよく使えて邪魔になりません。ハンドル部分はソフトグリップが付いたので、(RSE)に比べて、滑りづらくて握りやすくなっています。ヘッドも、(RSE)と同様、大人の手のひらにすっぽりと



### BEFORE



### AFTER



クルマのフロントにライトを当て、磨く前と磨いた後を同じアングルから撮影してみると一目瞭然。磨く前は細かいキズやシミが無数に入っていたのに対して、十数分作業しただけでもかわらず、磨いた後はそれらがほとんど消えている!

### フロント磨き



まずホコリを取るために洗車からスタートし、乾いたところでフロント磨きに挑戦。1~2の回転速度で狭い範囲を左から右に、上から下へ。このセットを繰り返して次の箇所へ移動する。水平面を磨く作業はじつは意外にもラクだとか。

### サイド磨き



熱いサイド磨き。工具の自重が使えるフロントに対して、サイドは平行に当てることが難しく、角度を付けてしまうとすぐに回転が止まってしまう。回転を意識しながら真っすぐ押し当てることが大切だ。

### まなっちガレージ



カーディティリングのことなら何でもお任せ!という「まなっちガレージ」。通常の洗車やディティリングのほか、「ガレージ使い放題サービス」では、ガレージ、職人、ケミカル、ポリッシャーが自由に使えるプラン(1万4850円/3hと2万9700円/7h、2回目以降割引あり)や、ガレージ、ケミカル、ポリッシャーが使えるプラン(3630円/1hと2万1780円/7h)なども用意されている。詳細は下記URLまで。  
<https://you-town.jp/car-garage/>

### お勧めオプション(別販売品)のパフ

真中さんによれば、羊毛パフ(左)と#1000~2000のコンパウンドの組み合わせで深いキズを研磨し、次に布パフ(中)と#2000~3000のコンパウンド、そして最後にスポンジパフ(右)と#3000~5000で仕上げるのが基本とのこと。羊毛は毛が長く熱がこもりにくいので、その分、力が入れやすくなり研磨力もアップする。



から必ず結構にマウントさせながら磨いてください」

では、いよいよ上磨きを開始。ボンネットにポリッシャーを慎重に当てていく神さんを見守りながら真中さんが声をかける。「最初はコンパウンドを伸ばして、感覚で力を入れ過ぎないで。上から下へ回っていることを意識して……」  
「1分〜10分、ひと区画の磨きが完了した。左上の写真がその成果。磨く前は無数にあったキズやシミがほとんど消えてしまった。「電動工具は重くて初心者には操作しにくい印象がありました。思いのほか軽く、真っすぐ当てやすいのは、握りやすさからきているんですね。スライチやダイヤルも使いやすいつ場所にあります!」  
次は別のパフやコンパウンドに挑戦したいと神さんは意欲を燃やす。初心者だけでなくクルマ磨きに挑戦したいという方は、まずは「まなっちガレージ」で「BRSE」を試してみてもいいかだろうか?

### 磨きの4箇条

その1 ボディに対して平行に

その2 しっかりと回転させること

その3 あまり攻め過ぎない

その4 同じように当て過ぎない



「上から下へ、回って回って回って……」、真中さんの指導に従って、愛車のボンネットを慎重にポリッシング。「職人さんというと熟練なイメージでしたが、とても話がお上手で、教えてほしいポイントを分かりやすくアドバイスしていただきました」と神さん。

# 初心者が「BRSE-1800L1」で、クルマ磨きに挑戦!

「BRSE-1800L1」の性能が充分に分かったところで、次はいよいよ実践編だ。クルマ磨きはまったくの初めてという素人が、サンダポリッシャーで愛車のポリッシングに挑戦した。

写真/新潟 大(WPP) 文/モノマガジン編集部



思いのほか軽く、バランスが取りやすい

プロディティラーからのお墨付を得たところで、ポリッシャーはまったく未経験という会社員の神公司さんに「BRSE-1800L1」を使っていたらどう。幸い「まなっちガレージ」には、道員がなくとも愛車を磨きたいという人のために、ガレージや職人、ケミカル、ポリッシャーが一日使い放題のコースが用意されているのだ。まずは洗車からスタート。しっかりと汚れを落とさないと磨きに影響が出る。次に磨きだが、その前にポリッシャーを使いこなすために抑えておきたい4つのポイントを真中さんが教えてくれた。

第1は、ボディに対して平行に当てること。「真っ直ぐに当てないと均一に磨けないんです」と真中さん。上面は工具の自重で意外と楽にできるが、側面を磨くときはかたかたに難しいのだとか。第2はしっかりと回転させること。「押しすぎると回転が鈍って、コンパウンドがのらなくなります。必ず適切な圧で」。第3は、あまり攻めすぎないこと。「キワまで磨くとすると、一瞬でボディが破損してしまう恐れがあるからです。僕も回転直前でそこまで攻めません。あくまで、大きな面だけを磨いてください」。そして最後に、同じように当て過ぎないこと。「同じように当てると熱がこもってしまうので、コンパウンドが乾いて焼き付いてしまったりするんです。だ